

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	国際福祉論	科目ナンバリング	YF_L24023
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

この講義では、20年ほど前に提唱され、近年極めて重要視されるようになった「人間の安全保障(Human Security)」という理念と、それに基づく国際的な活動（国家、国際機関、市民社会、NGO等の取り組み）を紹介し、21世紀の人類社会の新たな国際福祉の局面について考察を深めていきたい。

《授業の到達目標》

- 従来の安全保障概念を超えた「人間の安全保障」という理念の特徴を挙げることができる。
- 人類が世界大で直面する課題を指摘し、それらに対する活動の現状を説明することができる。
- 21世紀の国際福祉のあり方を、具体的に構想することができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100％）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

長有紀枝（著）『入門 人間の安全保障—恐怖と欠乏からの自由を求めて』（2012年、中公新書）
 高橋哲哉・山影進（編）『人間の安全保障』（2008年、東京大学出版会）
 その他、講義の中で随時紹介していく。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

従来、人々の生命や安全を守るのは国家の仕事と考えられてきましたが、その国家が当てにならない時、どうするか？それを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	安全保障とは何か
2	「人間の安全保障」とは(1)	その成り立ち
3	「人間の安全保障」とは(2)	恐怖からの自由・・・武力紛争
4	「人間の安全保障」とは(3)	恐怖からの自由・・・難民
5	「人間の安全保障」とは(4)	恐怖からの自由・・・核兵器・原子力
6	「人間の安全保障」とは(5)	欠乏からの自由・・・貧困
7	「人間の安全保障」とは(6)	欠乏からの自由・・・保健衛生、環境
8	「人間の安全保障」とは(7)	欠乏からの自由・・・開発、食料
9	「人間の安全保障」とは(8)	尊厳を持って生きる自由・・・人権、子ども
10	「人間の安全保障」とは(9)	尊厳を持って生きる自由・・・ジェンダー
11	「人間の安全保障」とは(10)	尊厳を持って生きる自由・・・災害復興
12	国際機関と「人間の安全保障」	国際連合
13	国家外交政策と「人間の安全保障」	日本、アメリカ
14	市民社会と「人間の安全保障」	様々なNGO
15	まとめ	すべての人の自由と可能性を実現するために

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	こどもとメディア	科目ナンバリング	YS_L24027
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ○ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む 		

《授業の概要》

こどもとメディアの関わり合いについて、各種メディアによる表現の可能性について考える。こどもが視覚や聴覚を通して興味関心をもつためのアイデアを探る。具体的には、コンピュータやタブレット端末上で体験できる、動的表現、音声表現、連携表現、創造表現による作品を作る。最終的には、現場で活かすことを目指すことにし、構想、制作、構築を通してできあがった作品の評価を互いにおこなう。

《授業の到達目標》

- どのようなメディアがあるのかを理解し、その特性を活かした使用ができる。
- メディアを用いて、思い描くイメージや動作を正確に表現することができる。
- こどもの表現力や創造力を引き出せるような作品を作り上げることができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出40%

課題提出とその成果60%

分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

メディアの特性や使い方を踏まえた上で、こどもの目線に立ちながらアイデアを盛り込むといった、自主的な取り組みに期待します。

《備考》

正確な動作をおこなうには、忠実に指示して組み立てる必要があります。一方で、目の前で動作を確認しながら、想定外で得られた表現もどんどん取り入れて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と展開方法	授業計画と展開方法を説明し、こどものメディアの利用と関わりについて説明する。
2	メディアと動的表現(1)	思い通りの動きを表現するための仕組みを知り、実行をおこなう方法について学ぶ。
3	メディアと動的表現(2)	動きの制御とともに、ペンによる描画、キー操作、マウス操作の方法について学ぶ。
4	メディアと動的表現(3)	繊細かつ複雑な動きの実現とともに音や合図に連動させるための方法について学ぶ。
5	メディアと音声表現(1)	リズムを刻んで音を出す仕組みと曲を奏するための処理手続きの方法について学ぶ。
6	メディアと音声表現(2)	テンポや音量等を変えて演奏する仕組みを知り、表現の可能性と方法について学ぶ。
7	メディアと音声表現(3)	楽器の種類等を変更して演奏する仕組みを知り、効果的な演出の方法について学ぶ。
8	メディアと連携表現(1)	音楽と動きの連携について考え、魅力のある見せ方やその演出の方法について学ぶ。
9	メディアと連携表現(2)	一体感のある音楽と動きのコラボについてシミュレーションする方法について学ぶ。
10	メディアと連携表現(3)	演奏の仕方を自ら選択できるようなシステムチックな作品演出の方法について学ぶ。
11	メディアと創造表現(1)	デジタル楽器の音階に対するオブジェクトのレイアウトとデザイン性について学ぶ。
12	メディアと創造表現(2)	オブジェクトに対応する音の割り振りや音の出力の確認および操作性について学ぶ。
13	メディアと創造表現(3)	楽器の種類をリスト化して、切り替えができるデジタル楽器の可能性について学ぶ。
14	メディア表現の可能性	作品の試行と改良と評価を繰り返しながらメディア表現の可能性について追求する。
15	授業の振り返りと総括	メディアを用いた作品を通して、授業の振り返りと今後の発展性について検討する。

《専門教育科目 専門科目 I 群》

科目名	国際こども文化論		科目ナンバリング	YS_L24028
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる			

《授業の概要》

この講義では、世界の様々な文脈における「子ども」の語られ方を紹介し、その多様な子ども像を検討していく。さらに世界の子どもと日本の子どもを様々な視点で比較する事で、より客観的な子どもの理解の一助としたい。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介していく。

《授業の到達目標》

- 人類が描いてきた様々な「子ども像」を理解しその特徴を挙げる事ができる。
- 世界の子どもの比較する様々な評価の視点を説明できる。
- 自分なりの「子ども像」を客観的な視点から構想することができる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末にレポートを提出してもらい評価する（100%）。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

様々なメディアに登場する「子ども」を紹介していきます。一緒にその多様さを楽しみましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	子どもとは誰のことか
2	歴史の中の子ども（1）	古代・中世
3	歴史の中の子ども（2）	近代
4	小説の中の子ども（1）	外国の小説
5	小説の中の子ども（2）	日本の小説
6	映画の中の子ども（1）	海外の映画
7	映画の中の子ども（2）	日本の映画
8	国際社会の中の子ども（1）	子どもの権利条約
9	国際社会の中の子ども（2）	ユニセフの活動
10	比較（1）	教育制度
11	比較（2）	学力
12	比較（3）	体力
13	比較（4）	職業
14	比較（5）	文化
15	まとめ	もう一度、子どもとは誰のことか

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、専門演習Ⅱにつづき、『論理トレーニング』の第3部「演繹」から第4部「議論を作る」を中心に、論理的な言語運用能力と論理的な文章作成力を鍛えていくつもりである。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第8章 条件構造（1）
3	論理トレーニング	第8章 条件構造（2）
4	論理トレーニング	第8章 条件構造（3）
5	論理トレーニング	第9章 推論の技術（1）
6	論理トレーニング	第9章 推論の技術（2）
7	論理トレーニング	第9章 推論の技術（3）
8	論理トレーニング	第9章 推論の技術（4）
9	論理トレーニング	第10章 批判への視点（1）
10	論理トレーニング	第10章 批判への視点（2）
11	論理トレーニング	第10章 批判への視点（3）
12	論理トレーニング	第11章 論文を書く（1）
13	論理トレーニング	第11章 論文を書く（2）
14	論理トレーニング	第11章 論文を書く（3）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

紙工作の作品をデザインする。
紙工作のワークショップや作品の利用を考える。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

紙工作の楽しさを知り、その利用と伝え方を考えることができる
こどもの視点で作品を見ることができる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物（100%）。
提出物にはコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	演習の目的
2	折りを利用した造形1	折りを利用したペーパークラフト制作1
3	折りを利用した造形2	折りを利用したペーパークラフト制作2
4	折りを利用した造形3	折りを利用したペーパークラフト制作3
5	折りを利用した造形4	折りを利用したペーパークラフト制作4
6	立体構成1	立体構成の作品制作1
7	立体構成2	立体構成の作品制作2
8	立体構成3	立体構成の作品制作3
9	立体構成4	立体構成の作品制作4
10	作品のデザイン1	ペーパークラフトの設計と制作1
11	作品のデザイン2	ペーパークラフトの設計と制作2
12	作品のデザイン3	ペーパークラフトの設計と制作3
13	作品のデザイン4	ペーパークラフトの設計と制作4
14	造形作品の利用1	作品を活用できる場面を考える1
15	造形作品の利用2	作品を活用できる場面を考える2

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こども福祉専門演習での取り組みを踏まえ、各自の関心領域を探究する。児童の社会的養護に関わる実際の場への訪問と子どもへの関わり、専門スタッフとの意見交換等により、児童家庭福祉の理念について考える。

《テキスト》

プリントの配布

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

子どもの幸せとは何か、その方途と現代社会の課題について自分の意見を述べることができる。
 児童家庭福祉の理念について、自らの考えを他者に伝えることができる。

《授業時間外学習》

子ども、女性、家庭に関する報道等、現状を把握するように努める。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（50%）
 課題の提出：授業中に提出したレポート等な返却し、次の課題解決に役立たせる（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習のねらいと進め方、到達目標と評価について説明する。
2	卒業発表に向けての取り組み	社会的養護の場の訪問に向けて、調査計画の作成をする。
3	卒業発表に向けての取り組み	社会的養護の場の訪問に向けて、調査計画の作成をする。
4	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
5	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
6	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
7	卒業発表に向けての取り組み	調査計画に則って、児童養護施設、保育所等を訪問する。
8	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
9	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
10	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
11	卒業発表に向けての取り組み	調査結果をまとめると同時に文献による学習を進める。
12	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
13	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
14	卒業発表に向けての取り組み	研究成果の報告をし、意見交換をする。
15	卒業発表に向けての取り組み	今期の学習を振り返り、Ⅱ期の演習課題を絞り込む。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

受講学生各々が設定した卒業研究のテーマについて、文献研究や調査等を通して理解、認識を深めていく。

《テキスト》

統一されたテキストは使用しない。受講学生が設定した卒業研究のテーマに関わる先行研究がテキストとなる。

《参考図書》

受講学生の設定した卒業研究のテーマのに基づき適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①受講学生自身が設定した卒業研究のテーマについて、理解を深めること。
- ②子どもの心理的発達について知見を深めること。
- ③大学生としての学びに取り組む姿勢を完成させること。

《授業時間外学習》

文献の探索、文献の精読、発表資料の作成と課題は多い。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組む態度への評価 50%。
 発表内容への評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を厳しく禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究のテーマの設定	3年次の専門演習における学びを受けて、4年間の学びの総括とすべき卒業研究のテーマを確認し、リサーチ・クエスチョンを設定する。
2	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
3	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
4	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
5	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
6	途中経過報告会 その1	第2週から第5週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
7	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
8	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
9	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
10	途中経過報告会 その2	第7週から第9週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
11	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
12	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
13	卒業研究の展開	受講学生が設定した研究テーマに基づき、個別研究指導を行う。
14	途中経過報告会 その3	第11週から第13週までの学びの成果を受講学生同士で報告し合い、次の研究へとつなげていく。
15	まとめ	卒業研究Ⅰの学びを振り返り、卒業研究Ⅱにおいてさらに追求すべき課題を明確にする。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

ワークショップの研究。社会環境の中の造形活動の場として捉え、時間や空間も含めたアートとの関わりについて学びます。不特定多数の異年齢の子供達が集まって主体的に参加できる企画内容について研究します。

《テキスト》

毎時間毎に計画表と参考資料を配付する。

《参考図書》

図画工作・みかたがわかる授業づくり 著書：西村徳行

《授業の到達目標》

地域プロジェクト、フィールドワーク、展覧会など活動について学び実践する力を養う。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（100%）により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	各自の研究テーマとポートフォリオ作成の決定
2	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
3	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
4	造形遊びの視点①	素材：素材そのものと触れ合う。
5	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせる。
6	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせる。
7	造形遊びの視点②	行為：からだ全体の感覚を働かせ。
8	造形遊びの視点③	環境：環境へ進んで関わり、想像力や創造的な技能を高める。
9	造形遊びの視点③	環境：環境へ進んで関わり、想像力や創造的な技能を高める。
10	造形遊びの視点④	異年齢：相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来るようにする。
11	造形遊びの視点④	異年齢：相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来るようにする。
12	ワークショップの現場①	地域プロジェクト活動
13	ワークショップの現場②	フィールドワーク活動
14	ワークショップの現場③	展覧会活動
15	まとめ	プレゼンテーション

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ルソーの自叙伝。自分の子供を捨てたルソーが児童の福音書と言われる『エミール』を著わした。ルソーの生涯を自ら語った小説『告白』を読みルソーの生き方・価値観を年代的に辿り、「人間ルソー」を考察する。

《テキスト》

ルソー『告白』全3巻 岩波文庫

《参考図書》

桑瀬章一郎『ルソーを学ぶ人のために』世界思想社
 桑原武夫編『ルソー』岩波新書
 E. カッシーラー『ジャン=ジャック・ルソー問題』みすず書房

《授業の到達目標》

第一部の出生からパリに向かうまで（30歳）までの人生を辿る。ルソーの人間像と人間観を考察し、ルソーのという人間を追求する。種々の人間像を体現しながら矛盾と相克に苦しみ、依存的人間の時期の特徴を理解する。

《授業時間外学習》

提示参考書以外のルソーの著作を読む とくに『社会契約論』は必読。

《成績評価の方法》

レポート400字20枚 100%
 別紙にコメントを付して渡す。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業演習の方針
2	幼少期	出生からジュネーブ脱出までの幼少期の生活
3	放浪期1	16歳からの放浪の旅に始まり
4	放浪期2	17歳 神学校時代 職を転々とする時代
5	放浪期3	18歳 リヨン時代の生活・人生
6	恋物語	19歳 ヴァランス夫人の元で落ち着く 依存時代のはじまりシャンペリの生活
7	男と女1	愛の葛藤 バジール夫人との恋物語
8	男と女2	ルソーと母性
9	思想家ルソーの誕生	ノイローゼと自己教育 24歳頃
10	知的準備の時代	シャルメットの地で自然の中での独学とルソーの理想的世界
11	依存からの脱却	1740年ルソー28歳 リヨンからパリに移るまで
12	『社会契約論』の構想	1742年パリに移住 30歳 政治的関心と『社会契約論』関係
13	結婚(?)と子供	1745年テレーズと関係(結婚) 1746年までに2児をもうけ捨てる
14	前期まとめ1	幼少期～依存期(30歳)までの整理1 課題の設定
15	前期まとめ2	幼少期～依存期(30歳)までの整理2 課題の設定

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育・保育実践に関する様々な事象や課題の中から自身の研究テーマを選択し、調査・研究を行う。研究経過を授業内で発表し、ディスカッションを交えながらテーマに対する検討・考察を深める。

《テキスト》

適宜指示する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 研究課題を設定し、様々な手法を用いて調査・研究ができる。
- 受講生の意見交換を通して様々な考え方に触れ、問題の所在を明確にする。
- 設定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。

《授業時間外学習》

授業内での発表を省察し、さらに自身が学びを深めたいテーマ、課題を探究するよう努めること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度及び提出課題を総合的に評価する。100%課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する
2	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
3	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
4	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
5	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
6	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
7	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
8	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
9	教育・保育に関する課題探究と検討	研究テーマを選定する。
10	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
11	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
12	教育・保育に関する課題探究と検討	選定したテーマに基づいて調査・研究を行う。
13	教育・保育に関する課題探究と検討	調査・研究結果に基づく検討を行う。
14	演習のまとめ	学習内容を総括する。
15	演習のまとめ	学習内容を総括する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅰ	科目ナンバリング	YS_S14003
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

子どもを対象とした音楽会の企画・立案を行い、これまでの学びや情報収集、文献による学習等を通して、企画書の作成を行う。それをもとに、保育・教育における音楽的教材の作成を行う。そして、音楽会で取り入れる音楽による保育内容の研究を行い、技能の習得と向上を図る。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 研究心を持って、音楽を軸とした企画書の企画・立案・作成ができる。
- (2) 音楽的教材研究において、教育的意図を持って、工夫を凝らしながら教材を創造することができる。
- (3) 音楽による保育内容（歌・手遊び・リズム・楽器・合奏・身体表現を伴う音楽等）に関して、技能の習得できる。

《授業時間外学習》

- ・授業で完成しなかった教材研究は、次回の授業までに完成させてくること。
- ・各自の役割を自覚し、知識・技能が不十分であれば、一人ひとりが責任を持ってその回ごとの練習を積み重ねていくこと。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については企画書、(2)については教材、(3)については技能で評価する。評価の割合は、企画書20%、作品30%、技能30%、授業への参加態度と意欲20%で評価する。授業内においてコメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要及び計画
2	卒業演習の構想(1)	子どもを対象とした「音楽会」の企画(1)
3	卒業演習の構想(2)	子どもを対象とした「音楽会」の立案(2)
4	卒業演習の構想(3)	子どもを対象とした「音楽会」の企画書の作成(2)
5	保育・教育における音楽的教材研究(1)	手作り楽器等(学生の企画書に基づいた教材研究)
6	保育・教育における音楽的教材研究(2)	ペーパーサート等(学生の企画書に基づいた教材研究)
7	保育・教育における音楽的教材研究(3)	歌紙芝居(1)等(学生の企画書に基づいた教材研究)
8	保育・教育における音楽的教材研究(4)	歌紙芝居(2)等(学生の企画書に基づいた教材研究)
9	音楽による保育内容の研究(1)	歌に関する研究・練習
10	音楽による保育内容の研究(2)	手遊び歌・手合わせ歌に関する研究・練習
11	音楽による保育内容の研究(3)	リズム・ボディパーカッション等に関する研究・練習
12	音楽による保育内容の研究(3)	楽器に関する研究・練習
13	音楽による保育内容の研究(4)	合奏に関する研究・練習
14	音楽による保育内容の研究(5)	身体表現を伴う音楽に関する研究・練習
15	総まとめ	企画書の進捗状況の確認と課題

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

この演習では、『論理トレーニング』を修了し、本格的に卒業研究に入る皆さんのために、リサーチの作法、論理的プレゼンテーションの方法を修得してもらうつもりである。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《授業時間外学習》

常に自らの課題を背負って卒業研究を進めてもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、研究発表会におけるプレゼンテーションの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（60%）、プレゼンテーション（40%）である。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

4年間の大学生生活の集大成です。一緒に頑張りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	卒業研究の準備（1）	各自の卒業研究の方針の決定
3	卒業研究の準備（2）	各自の卒業研究のテーマの決定
4	卒業研究の準備（3）	各自の卒業研究の論理の確認
5	卒業研究の実践（1）	個別研究指導
6	卒業研究の実践（2）	個別研究指導
7	卒業研究の実践（3）	個別研究指導
8	卒業研究の実践（4）	個別研究指導
9	卒業研究リハーサル	プレゼンテーションの予行演習
10	卒業研究発表会（1）	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
11	卒業研究発表会（2）	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
12	卒業研究発表会（3）	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
13	卒業研究発表会（4）	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
14	卒業研究発表会（5）	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を聴き、議論に参加する
15	まとめ	4年間をふりかえる

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

紙工作の教材を作成する。
紙工作の活用方法を考える。

《テキスト》

なし

《参考図書》

《授業の到達目標》

紙工作の楽しさを知り、その利用と伝え方を考えることができる
こどもの視点で作品を見て、自ら評価できる

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
できるだけ多くのもの（実物）を観察すること。

《成績評価の方法》

作品、レポートなどの提出物(100%)。
提出物にはコメントを付して返却する。
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

資料等の一部はWebページで公開しています。
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	今期の目標と計画
2	作品制作1	目的に応じた作品の設計と制作1
3	作品制作2	目的に応じた作品の設計と制作2
4	作品制作3	目的に応じた作品の設計と制作3
5	作品制作4	目的に応じた作品の設計と制作4
6	教材制作1	作品の利用と記録1
7	教材制作2	作品の利用と記録2
8	教材制作3	作品の利用と記録2
9	教材制作4	作品の利用と記録4
10	卒業研究発表会 その1	合同発表会1
11	卒業研究発表会 その2	合同発表会2
12	卒業研究発表会 その3	合同発表会3
13	卒業研究発表会 その4	合同発表会4
14	卒業研究発表会 その5	合同発表会5
15	卒業演習の総まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

4年間の学びを通して、児童家庭福祉についての自らの考え方を確立する。

《テキスト》

プリントの配布

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

4年間の学びを卒業研究発表会において報告することができる。

《授業時間外学習》

卒業研究発表に係る作業を課す。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲、報告の内容等：提出物は返却し、次への課題解決に役立たせる(60%)
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価(40%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
2	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
3	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
4	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
5	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
6	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
7	卒業研究発表に係る原稿の作成	具体的な原稿の内容をまとめ、作成に着手する。
8	卒業研究発表に向けて	授業の中で、発表会での報告を行い、内容の最終確認する。
9	卒業研究発表に向けて	授業の中で、発表会での報告を行い、内容の最終確認する。
10	卒業研究発表会 その1	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
11	卒業研究発表会 その2	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
12	卒業研究発表会 その3	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
13	卒業研究発表会 その4	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
14	卒業研究発表会 その5	卒業研究発表会に出席し、聴講者として自分の意見を述べられるようにする。
15	卒業演習の総まとめ	卒業研究発表会を通して、本演習の意義について考える。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

こども福祉卒業研究Ⅰで成し遂げた研究成果をさらに深め、研究発表会でのプレゼンテーションの準備を進める。研究発表会でのプレゼンテーションの実践、そして討論を通して、こども福祉学科での学びの総まとめとする。

《テキスト》

統一したテキストは使用しない。

《参考図書》

受講学生の設定した卒業研究のテーマに基づいて、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①受講学生自身が設定した卒業研究のテーマについて理解を深める。
- ②受講学生自身が設定したテーマについて学んだことを効果的にプレゼンテーションする。

《授業時間外学習》

文献の精読、発表会の資料作成等、課題は多い。

《成績評価の方法》

授業に対して積極的に取り組み態度への評価 50%。
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 50%。
 学生の発表に対してコメントをすることで、こまめにフィードバックを行う。

《備考》

無断欠席を禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
2	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
3	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
4	卒業研究の実践	個別研究指導を行う。
5	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
6	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
7	卒業研究発表のスライドと原稿の作成	卒業研究発表会において用いるスライドと原稿の作成を行う。
8	卒業研究発表の予行演習 その1	卒業研究発表のリハーサルを行い、卒業研究発表会に向けての最終チェックを行う。
9	卒業研究発表の予行演習 その2	卒業研究発表のリハーサルを行い、卒業研究発表会に向けての最終チェックを行う。
10	卒業研究発表会 その1	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
11	卒業研究発表会 その2	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
12	卒業研究発表会 その3	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
13	卒業研究発表会 その4	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
14	卒業研究発表会 その5	卒業研究発表会に参加し、他の学生の発表を傾聴し、ディスカッションに加わる。
15	卒業演習の総まとめ	卒業演習を通しての学びを総括する。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

4年間の学びの集大成としての演習である。卒業後の進路を考慮し、発展科目の履修、さらなる社会福祉とこども福祉関連科目の履修などについて、各教員が相談に乗り、キャリア教育という意味合いを持つ演習である。各演習で学んだ成果をまとめ、報告する機会も設ける。

《テキスト》

毎時間ごとに計画書と参考資料を配付する。

《参考図書》

イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践記録 子どもたちの100の言葉 学研

《授業の到達目標》

卒業演習Ⅰの内容に基づき、実際に指導案を作成し学内、学外で実践する。更に研究を進め、内容、材料、技術的な面の研究を論文としてまとめ発表する。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

提出作品（60％）と研究発表（40％）により成績評価を行う。

《備考》

授業の始めに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究テーマの決定と発表の仕方について
2	イベントの基本計画	安全なイベントの社会的な役割について。
3	制作、合評、制作研究ノート指導①	個人指導
4	制作、合評、制作研究ノート指導②	個人指導
5	制作、合評、制作研究ノート指導③	個人指導
6	制作、合評、制作研究ノート指導④	個人指導
7	制作、合評、制作研究ノート指導⑤	個人指導
8	制作研究ノート、ポートフォリオ仕上げ	個人指導
9	プレゼンテーション	個人指導
10	卒業研究発表会 その1	学科単位で発表
11	卒業研究発表会 その2	学科単位で発表
12	卒業研究発表会 その3	学科単位で発表
13	卒業研究発表会 その4	学科単位で発表
14	卒業研究発表会 その5	学科単位で発表
15	卒業演習の総まとめ	学科単位でのまとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	田中 博一		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 こどもの発達過程について正しく理解する ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

ルソーの自叙伝。自分の子供を捨てたルソーが児童の福音書と言われる『エミール』を著わした。ルソーの生涯を自ら語った小説『告白』を読みルソーの生き方・価値観を年代的に辿り、「人間ルソー」を考察する。

《テキスト》

ルソー『告白』全3巻 岩波文庫

《参考図書》

桑瀬章一郎『ルソーを学ぶ人のために』世界思想社
 桑原武夫編『ルソー』岩波新書
 E. カッシーラー『ジャン=ジャック・ルソー問題』みすず書房

《授業の到達目標》

30歳を過ぎたルソーは依存的時期から戦闘的、そして晩年の隠遁の時期に入っていく。『人間不平等起源論』『エミール』『社会契約論』等の著作を公刊。ルソーの人間の平等、教育論、国家論について理解する。

《授業時間外学習》

『人間不平等起源論』、『社会契約論』についても関心を持つ。

《成績評価の方法》

レポート400字20枚程度（8000～10000字）60%
 研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 40%
 レポートは別紙にコメントを付して渡す。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	無名の時代	パリに移ってドゥドト夫人等との恋愛などの交錯した生活の中で自己改革を決意する過程を解説
2	『学問的芸術論』1	1750年ルソー38歳 ルソーを有名にした著作。ルソーの諸思想の特徴を解説と討論
3	『学問的』芸術論2	1750年ルソー38歳 ルソーを有名にした著作。ルソーの諸思想の特徴を解説と討論
4	ルソーの子供遺棄	40歳～43歳の間に第4、5児を遺棄する。その心情や生活を考える。
5	『人間不平等起源論』の公刊	1775年 43歳『人間不平等起源論』公刊の概要を解説し、討論する。
6	『エミール』『社会契約論』公刊 1	1762年 50歳 2冊公刊 この時代のルソーの思想を概括し討論する。
7	『エミール』『社会契約論』公刊 2	1762年 50歳 2冊公刊 この時代のルソーの思想を概括し討論する。
8	隠遁生活の時代	1776年ルソー54歳頃から1778年66歳に没するまでの生活を辿り、その晩年の状況を推測し、人間ルソーを振り返る。
9	『告白』出版	1782年ルソー死後4年に出版される。『告白』の総括的議論
10	卒業研究発表会その1	各自の研究結果を聞き講評する
11	卒業研究発表会その2	各自の研究結果を聞き講評する
12	卒業研究発表会その3	各自の研究結果を聞き講評する
13	卒業研究発表会その4	各自の研究結果を聞き講評する
14	卒業研究発表会その5	各自の研究結果を聞き講評する
15	卒業演習の総まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

受講生各自が卒業研究課題を選定し、研究発表に向けて学習成果をまとめる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
受講生自身が資料を準備する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 選定した課題に対して検討を加え、自分なりの考察ができる。
- 各自の課題を通して4年間の学習成果を総括する。

《授業時間外学習》

研究課題に関する資料、情報等を丁寧に収集し、整理しておくこと。
授業時間内に受けた指導内容を確認し、次回への準備を調えること。

《成績評価の方法》

授業への参加態度（20％） 提出課題（40％）
研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価（40％）
課題及び授業の到達目標に対するフィードバック：わからないことはオフィスアワーや授業の前後に質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の方法を確認する。 卒業研究課題に沿って研究を深める。
2	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
3	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
4	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題に沿って研究を深める。
5	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
6	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
7	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
8	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
9	卒業研究課題の探究と検討	卒業研究課題をまとめ、発表準備を行う。
10	卒業研究発表会 その1	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
11	卒業研究発表会 その2	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
12	卒業研究発表会 その3	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
13	卒業研究発表会 その4	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
14	卒業研究発表会 その5	各自の卒業研究を発表し、参加者全員で討議を行う。
15	卒業演習の総まとめ	学習の総括を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども福祉卒業演習Ⅱ	科目ナンバリング	YS_S14004
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

「子どもを対象とした音楽会」の企画内容に基づき、個人及び学生同士で練習を重ね、技能の向上を目指す。また、舞台において使用する教材や演出、背景音楽についても検討する。そして、これまでの学びを総合して、音楽を楽しく表現することができる。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 企画書に基づいた音楽表現内容の技能を習得することができる。
- (2) 教育的視点から、舞台演出に関して意見を持ち、実行することができる。
- (3) 人前で、自らが楽しく、音楽を表現することができる。

《授業時間外学習》

- ・良い舞台を完成するには、一人ひとりが大切な存在であることを自覚し、技能向上の為に練習を積み重ねること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については技能、(2)についてはレポート、(3)については技能とし、いずれも授業への参加態度と意欲を加味する。評価の割合は、技能60%、授業への参加態度と意欲40%で評価する。
コメントをフィードバックする。

《備考》

ML室使用上の注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要及び計画 卒業演習発表会個別練習①
2	音楽総合研究 (1)	卒業演習発表会個別練習②
3	音楽総合研究 (2)	卒業演習発表会全体練習①
4	音楽総合研究 (3)	卒業演習発表会全体練習②
5	音楽総合研究 (4)	卒業演習発表会全体練習③
6	音楽総合研究 (5)	卒業演習発表会全体練習④及び舞台演出の検討①
7	音楽総合研究 (6)	卒業演習発表会全体練習⑤及び舞台演出の検討②
8	音楽総合研究 (7)	卒業演習発表会リハーサル①
9	音楽総合研究 (8)	卒業演習発表会リハーサル②
10	卒業研究発表会 (1)	卒業年次生各ゼミによる研究発表①
11	卒業研究発表会 (2)	卒業年次生各ゼミによる研究発表②
12	卒業研究発表会 (3)	卒業年次生各ゼミによる研究発表③
13	卒業研究発表会 (4)	卒業年次生各ゼミによる研究発表④
14	卒業研究発表会 (5)	卒業年次生各ゼミによる研究発表⑤
15	総まとめ	卒業演習の総括

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	YS_S24008
担当者氏名	杉山 貴要江、澤田 真弓			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する 			

《授業の概要》

この演習は保育・教職課程の総括的な授業である。これまでの履修状況や記載してきたカルテなどを振り返って不足している知識や技能などを認識し、克服しながら保育者としての実践力を高める。そのため、保育・教育現場等から講師を招いて講義に関連した事例研究やグループ討議を行う。また、模擬保育等を通して保育者として必要な知識・技術を習得したことの確認を行う。

《授業の到達目標》

○保育・教職課程の履修により習得した知識・技能をもとに、保育者としての実践力を身につける。
○コミュニケーション能力、情報処理能力、論理的思考力、問題解決能力等を養い、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を身につける。

《成績評価の方法》

授業内討議や発表への参加態度・成果（20%）
レポート等の課題提出物（30%）
実践研究（指導案作成・教材研究・模擬保育など）（50%）

《テキスト》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館
内閣府ほか『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《参考図書》

随時紹介する

《授業時間外学習》

これまでに各自が作成してきたカルテを中心に履修状況を振り返り、不十分な分野をできるだけ認識しておくこと。

《備考》

この科目は全学年を通じた「学びの集大成」として位置付けられるものである。このことを心得て教職生活が円滑にスタートできるように主体的に取り組むことを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	作成済みのカルテをもとに各自がこれまでの学修成果を振り返って自己の知識・技能の再点検をし、不足している知識や技能等の認識を明確化する。
2	講義1 ＜教育委員会＞	教職の意義や保育者の役割、職務内容について認識を深化させる。
3	講義からの学び	講義1の内容についてグループ討議・事例研究などから各自が自己の課題を明らかにする。
4	講義2 ＜幼稚園園長＞	保育者としての成長や保育の課題などについて認識を深化させる。
5	講義からの学び	講義2の内容についてグループ討議・事例研究などから学んだことを今後の保育実践につなげる。
6	講義3 ＜幼稚園教諭・保育士＞	乳幼児期の特性と乳幼児教育・保育の役割について理解を深める。
7	講義からの学び	講義3の内容についてグループ討議・事例研究などから学んだことを今後の保育実践につなげる。
8	保育参観	環境構成のあり方、指導案の役割と実践方法、保育者の言葉かけなどに主眼を置いて保育を参観する。
9	保育実践に向けて1	保育実践に向けて指導案を作成する。
10	保育実践に向けて2	保育実践に向けて教材研究や模擬保育を行い、指導案を修正する。
11	保育実践研究1	保育実践を通して指導力を向上させる。
12	保育実践の振り返り	保育実践研究1からの学びを今後の指導力向上につなげる。
13	保育実践研究2	保育実践を通して指導力を向上させる。
14	保育実践の振り返り	保育実践研究2からの学びを今後の指導力向上につなげる。
15	まとめ	授業内容の総括を行う。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	YS_L24012
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人が関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

- 受講態度30%
- レポート20%
- 筆記テスト50%

《テキスト》

こころの処方箋 (新潮文庫) 河合隼雄

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までに、レポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	造形総合演習	科目ナンバリング	YS_S24017
担当者氏名	満田 知美		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

モノ作りの楽しさを伝える課題を設定します。人の手がコソコソとつくり上げたモノは、温かく気持ちが癒されます。紙や布、ヒモ、糸、植物、プラスチック、チョークや墨等、使う素材や技法を学びます。芸術作品のような強い主張は少ないですがライフワークとして楽しむことを目的とします。同時にワークショップやイベント等、企画力を身につけます。

《テキスト》

毎時間毎に計画表と参考資料を配付する。

《参考図書》

頭のいい子を育てる手作り知育おもちゃ 寺西恵里子著書

《授業の到達目標》

・課題毎に完成イメージを強くもち、発想や工程、考え方を学ぶ。
 ・特殊な素材、材料、道具を扱い技術を習得する。
 ・同時にワークショップやイベント（時間や空間のアート）等、企画力を身につける。
 ・15週目はギャラリー展示を行います。

《授業時間外学習》

予習の方法：毎回使用する素材や材料について収集及び研究をする。
 復習の方法：授業内容を再確認し、疑問点がある場合は随時答える。

《成績評価の方法》

全作品（100%）の提出により成績評価を行う。

《備考》

授業のはじめに出席をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバス、課題、材料、道具の説明。
2	おもちゃ作り①	園児達ともできるスタンドグラスを作ります。窓に飾ると光が部屋に入り色が写ります。
3	おもちゃ作り②	園児達ともできるジグゾーパズルを作ります。パズルの数は絵が出来上がってから各自、数を決めてカッターカットします。
4	文字を楽しむ①	POP文字の練習／ひらがな、カタカナ、数字、英語、漢字をまずは鉛筆で次にサインペンで練習します。
5	文字を楽しむ②	イベント看板やお店の看板を作ります。
6	色を楽しむ①	オイルパステルで文字やイラストの練習。 練習の合間に黒板作りをします。
7	色を楽しむ②	黒板に丁寧にチョークアートをします。 最後にチョークでメッセージを書きます。
8	グッズ①	羊の糸巻きカード、チーズマウスレターセット、バナナのメモ帳、そら豆カードの中から2種類制作。
9	グッズ②	羊の糸巻きカード、チーズマウスレターセット、バナナのメモ帳、そら豆カードの中から2種類制作。
10	グッズ③	自然の素材で生活雑貨作り。
11	グッズ④	特殊なガラス絵具を使ってピンに絵付けをします。
12	水墨画①	筆、墨を使って身近なものを一筆で描く。 はじめは点や線の練習から行います。
13	水墨画②	縁起物をモチーフに来年の絵馬を作ろう。
14	大作	ジャバラワークス。紙の人形に描いたり、貼ったり個性豊かに制作します。 最後に全員の作品をつなげて、広げて世界はつ★
15	ギャラリー	各自手作り作家になりきってギャラリー展示を行います。展示場所は要相談。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども音楽療育演習	科目ナンバリング	YS_S24020
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

音楽療育を実践する為には、対象児や療育の具体的方法についての理解を深め、実際に音楽を使用したアプローチを行える技能が必要である。本授業では、演習を通して、音楽療育の実践に必要な打楽器、鍵盤楽器、歌、手遊び、身体遊び等の技術の習得を目指す。また、障がい種別による対象児を設定し、セッションの立案を行った上で、実践する力を養う。

《授業の到達目標》

- (1) 音楽療育における対象児や具体的な方法について説明できる。
- (2) 音楽療育で使用する音楽的アプローチの技能を実行できる。
- (3) 障がい種別による対象児を設定しセッションの立案を行った上で実践できる。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)については試験、(2)については実技試験、(3)については立案したレポート及び発表を行う。評価の割合は、試験30%、実技試験30%、レポート及び発表40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。質問や補講レッスン等は、オフィスアワーで受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業内容全体における説明を行う。授業の到達目標・成績評価の方法を確認する。
2	音楽療育の対象児及び方法	音楽療育の対象児や具体的方法について理解を深める。
3	音楽的アプローチ(1)	リズム楽器の基礎的な技術を習得する。
4	音楽的アプローチ(2)	鍵盤楽器の音楽療育への活用法について応用的技能を習得する。
5	音楽的アプローチ(3)	音楽療育における歌・歌遊び・手遊びの可能性について知り、技能を習得する。
6	音楽的アプローチ(4)	身体遊びを使った音楽療育の音楽的アプローチについて演習する。
7	障がい種別に応じたアプローチ(1)	それぞれの障がいに適したアプローチ方法について学ぶ。
8	障がい種別に応じたアプローチ(2)	障がいに適したアプローチを実際に実技を通して習得する。
9	セッションの立案(1)	障がい種別による対象児を設定しセッションを立案する。
10	セッションの立案(2)	心身の発達を促す為の具体的なアプローチ方法について検討する。
11	セッション内容の研究及び実践練習(1)	各自の立案したセッションをもとに、実際に音楽療育を実践できるよう、練習を行う。
12	セッション内容の研究及び実践練習(2)	セッション場面で想定される対象児への働きかけや声かけ等、具体的なアプローチについて研究する。
13	研究発表(1)	習得してきたことを発表する。
14	研究発表(2)	発表を通して学生同士意見交換をし、課題を見つける中で、学びを深める。
15	学習のまとめ	これまでの学びを振り返り、まとめを行う。

《テキスト》

系統立ったプリントを資料として配布する。

《参考図書》

- 「音楽療法・レッスン・授業のための ネット帳」/theミュージックセラピー編集部/音楽の友社/2005
- 「こどもの音楽療法ハンドブック」/若尾祐他/音楽の友社/1998

《授業時間外学習》

- ・授業で学んだ音楽アプローチについて、練習を積み重ね、自分のものにしていくこと。
- ・図書館等で文献を読み、支援の視点を持って音楽を活用する可能性について考えながら復習をすること。

《備考》

ML室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること。

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	こども音楽療育実習	科目ナンバリング	YS_F24021
担当者氏名	立本 千寿子		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

音楽療育のスキルを修得するには、実際の実践場면을観察したり、対象児やセッションに関わるのが最も効果的である。本実習では、音楽療育の現場に実際に参加し、観察や参与を行うことを通じて実習を行う。その中で、座学で学んできた概論の理解を深め、演習で習得した技能を活用し、音楽療育の臨床能力を向上させる。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考図書》

実習先の特色によって適した文献を、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 支援を要する対象児の症状における専門的知識を理解し、その上で、対象児に応じた関りを行うことができる。
- (2) 音楽療育のセッション場面の観察を通して、セッション内容における支援者の意図について考察することができる。
- (3) 座学で学んだ概論、演習で習得した技能を活用し、音楽療育セッションに関わることができる。

《授業時間外学習》

- ・実習で観察した内容を、必ず記録としてまとめていくこと。
- ・実習で出会う対象児の状態や、音楽療育の具体的なセッション内容等実習で得た経験をもとにして、授業資料や文献を読み、専門知識の理解を深めること。

《成績評価の方法》

授業目標の(1)についてはレポート及び実習評価、(2)についてはレポート、(3)については実習評価で評価する。評価の割合は、レポート40%、実習評価60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。実習における評価は、個人ごとにコメントをフィードバックする。

《備考》

実習での注意事項を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習事前指導(1)	支援する姿勢と音楽療育の役割について学ぶ。
2	実習事前指導(2)	実習の心得を学び、実習施設の特色を理解する。
3	実習(1)	見学実習(1) 施設の特色及び対象児の理解
4	実習(2)	見学実習(2) 音楽療育の位置づけと果たしている役割について
5	実習(3)	見学実習(3) 音楽療育セッションの内容における理解
6	実習(4)	見学実習(4) 音楽療育セッションにおける支援者(Th.)の意図・目的について
7	実習(5)	見学実習(5) 具体的アプローチの技法について
8	中間報告会	見学実習での報告会及び参加実習に向けた音楽療育セッションの立案
9	実習(6)	参加自習(1) 音楽療育セッションへの参加
10	実習(7)	参加実習(2) 対象児に適したアプローチ方法の研究
11	実習(8)	参加実習(3) 音楽療育の形態と具体的方法について
12	実習(9)	参加実習(4) 支援者(Th.)としての在り方について
13	実習(10)	参加実習(5) 音楽療育を通じた対象児の変化に焦点化した理解
14	実習事後指導(1)	実習での反省と課題の発表
15	実習事後指導(2)	反省と課題についての討議

《専門教育科目 専門科目Ⅱ群》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	YS_F24034
担当者氏名	澤田 真弓		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

教育の理論と実践を結ぶ場において、保育者としての基礎的実践力を養う。さらに、保育者としての意思や適性を確認する。

《テキスト》

「幼稚園教育実習の手引き」

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
 相馬和子・中田カヨ子編『実習日誌の書き方』萌文書林

《授業の到達目標》

○授業を通して学んだ知識をもとに実習を行い、保育者としての態度や技能を修得する。

《授業時間外学習》

○手遊び、歌、絵本などの教材研究を計画的に進めておくこと。
 ○実習中に行う部分実習等の指導案を作成すること。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《備考》

○実習園の教育方針に沿って実習に臨こと。
 ○実習生としての責任ある行動と職業人としての意識を持って実習に臨こと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼稚園実習（4週間）	教育実習指導、その他既習得科目の内容を十分に踏まえること。実習園の指導に従い、積極的に実習を行うこと。
2	—	—
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 発展科目》

科目名	男女共同参画社会の構築		科目ナンバリング	YH_L24013
担当者氏名	柏 まり			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

女性と男性がともに社会に参画し、性別にとらわれることなく生き生きとした人生を送ることができる男女共同参画社会を築くことが、重要な国民的課題となっている。集団施設保育における子育て支援を担う保育者として、性別役割観意識に関する理解を深め、地域社会における子育て支援拠点として求められる役割について考える。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する

《参考図書》

必要に応じて指示する

《授業の到達目標》

- ・男女共同参画社会構築のための教育・保育について理解する
- ・女性の社会進出を促進するための子育て支援について理解する
- ・父親の育児参画の重要性について理解する

《授業時間外学習》

授業内に提示された課題についてレポートを作成する

《成績評価の方法》

期末レポート(60%)・授業中レポート(30%)・授業態度(10%)を総合的に評価

《備考》

グループ活動等のあるので、積極的な授業態度でのぞむこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や基本的概念の共有を図る
2	現代の子育て家庭に関わる諸問題	子育て家庭の現状と課題について理解する
3	女性の社会進出の現状と課題	女性の社会進出に関する意識の現状を把握する
4	親の子育てイメージと現実	育児不安の実情を把握し、課題を顕在化する
5	地域の子育て支援	地域の子育て支援プログラムについて理解を深める
6	保育施設における子育て支援	保育施設における支援の取り組みについて理解を深める
7	父親を対象とした子育て支援の実際	父親を対象とした子育て支援プログラムについて理解を深める
8	父親・母親の子育て意識	父親・母親の子育て意識から、子育てニーズについて考える
9	家庭におけるジェンダー再生産	しつけを通じたジェンダー形成について理解する
10	園におけるジェンダー再生産	保育者のかかわりと再生産過程について理解する
11	保育者の性別役割観	保育者自身の性別役割観意識の現状を把握する
12	子育て自助・共助・公助	男女共同参画社会構築に求められる子育て機能について理解する
13	男女共同参画社会における支援プログラム①	男女共同参画社会構築に寄与する子育て支援ニーズについて考える
14	男女共同参画社会における支援プログラム②	男女共同参画社会構築に寄与する子育て支援プログラム内容を検討する
15	まとめ	講義の総括を行う

《専門教育科目 発展科目》

科目名	福祉経営実践演習		科目ナンバリング	YH_S24014	
担当者氏名	田中 清人				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する				

《授業の概要》

将来の管理職や起業を目指した時に、より良い福祉サービスを継続して提供していけるよう、組織と経営の基礎を理解する。ヒト・モノ・カネ・情報の側面からのマネジメント能力を高めるとともに経営者のあり方について考える。

《テキスト》

プリント等の配布

《参考図書》

随時紹介する

《授業の到達目標》

福祉サービスの組織と経営、マネジメントに係る基礎理論について理解できる。
 自らが児童福祉施設等を開業することをイメージしてのビジネスプランを作成し発表できる。

《授業時間外学習》

授業資料、ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習をする。

《成績評価の方法》

授業への参加態度と意欲（30%）
 レポート課題等の提出物（70%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習の狙いと進めかた、到達目標と評価についての説明。
2	福祉サービスに関わる組織	社会福祉法人、特定非営利法人、営利法人、その他の組織について違いを理解する。組織の体系について理解する。
3	経営理念・事業計画	事業を立ち上げるうえでの舵取り部分について理解する。
4	マーケティング・経営戦略	マーケティング・経営戦略の基礎について理解する。
5	経営戦略事例検討	事例検討により経営戦略の学びを深める。
6	経営資源・ヒト	人的資源管理・労務について理解する。
7	経営資源・ヒト事例検討	事例検討により人的資源管理の学びを深める。
8	経営資源・モノ・サービス	施設設備・サービス内容についての理解を深める。
9	経営資源・カネ	事業に係るカネの流れについての理解を深める。
10	経営資源・情報	市場に関する情報の収集・ノウハウの活用についての理解を深める。
11	苦情解決とリスクマネジメント	苦情解決とリスクマネジメントについて理解する。
12	コンプライアンス経営	コンプライアンスの基礎知識・コンプライアンス違反事例について学ぶ。
13	ビジネスプラン作成	ビジネスプラン作成にあたっての説明を行う。
14	ビジネスプラン作成	授業を振り返りながらビジネスプランを作成する。
15	ビジネスプラン発表	作成したビジネスプランについての発表・意見交換を行う。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	消費者教育	科目ナンバリング	YH_L24015
担当者氏名	伊藤 由美子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

消費者・生活者として諸問題の歴史を知り将来の自らの生活に役立つ知識を修得して、これを周りの人々に分かり易く伝え一緒に考えることができ、それを行動に移す力をつけて欲しい。講義形式を中心としますが、事例によってはディスカッションを交えて理解を深めます。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『消費生活年報』『くらしの豆知識』国民生活センター、『消費者白書』消費者庁

《授業の到達目標》

幼児期における消費者教育の目標が「安全・契約、取引・情報・環境」において示されたことを受けて、受講者が消費者教育を学び、関わる幼児・保護者に向けて問題提議・問題解決の中心として活動ができる。

《授業時間外学習》

予習の方法：事前に配布するプリントを読んでおく。適宜課題の提出を求める。
 復習の方法：授業内容を確認し、不明瞭な部分をメモして授業展開につなげる。

《成績評価の方法》

①定期試験（60%）②授業時のレジュメ作成（20%）③理解度確認レポート（20%）
 *時間内にレジュメ・レポートなどを提出できない場合は理由を明確にして対応策を要相談すること。

《備考》

生活者の権利と義務を遂行し、持続可能社会に貢献するために必要な教育です。過去の失敗事例に学び、より良い生活を送るために活用して欲しいと考えます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	消費者意識調査&ライフプラン調査、シラバス確認
2	消費者教育の必要性	賢く生き抜く力を育成するために必要とされる知識の構築
3	消費者市民としての役割	経済社会への自らの働きかけを知り貢献する意欲を高める
4	キャリア教育と消費者教育	発達過程に於いて求められる権利と義務を遂行する能力の育成 多様なモノの見方や考え方が立場により変化することを学ぶ。
5	身近な契約と消費者教育	各々の立場で行われる契約の実態を知り賢く生きるための知識の構築
6	金融教育と消費者教育	ローン&クレジットの光と闇を理解したうえで模擬生活設計を行う。
7	食教育と消費者教育	食の安全・安心を求めるためにどのような行動が必要かを理解する。
8	環境教育と消費者教育	次世代につながる継続的な環境見直しの一例を基にディスカッション
9	情報教育と消費者教育	情報リテラシー能力を高めるための知識の構築と応用
10	安全・安心社会構築のために	多様な消費者問題を回避するための能力を高めるためのディベート
11	持続可能社会構築のために	健康社会を理解し継続させる手法の模索（ディスカッション）
12	心身共に安定した社会確保のために	ストレス社会で生き抜くため日々のケアについてディスカッション
13	消費者問題教育と行政	多岐にわたるトラブル事例と行政や教育機関などの連携を知ることで今後の対策を講じることができる。
14	教育現場の課題と新たな取組事例	消費者教育の事例と啓発方法などを知ることで置かれた環境での各々の役割を果たすことができる。
15	試験対策	授業のまとめ（重要個所の確認及びレポート作成）

《専門教育科目 発展科目》

科目名	こども福祉特論	科目ナンバリング	YH_L24018
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む ◎ 3-2 こどもの成長を願い、他の保護者と連携して集団保育に取り組む		

《授業の概要》

これまでの幼児教育、保育、福祉の学修成果と、これまで行ってきた実習を振り返り、理論と実践の融合について検証する。

自らが獲得した実践力を、各自が描くこども福祉理念と共に確認し、将来に向けての専門職像を確立する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時間内に必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

①幼児教育、保育、福祉等に関する基本的理念について、さらに認識を深めることができる。

②実習を通して培った実践力を確認し、具体的に示すことができる。③保育に係わる専門職についての理想を他者に伝えることができる。

《授業時間外学習》

これまでの実習を振り返る意味で、実習ノートをよく読み、各回の授業内容に沿って予習し、「こども福祉特論ノート」を作成するようにしてください。なお、提出物に関しては返却し、次への課題解決に役立たせられるようにする。

《成績評価の方法》

- ・「こども福祉特論ノート」の評価 50%
 - ・研究発表会におけるプレゼンテーションへの評価 50%
- 提出物は返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	こども福祉特論における学びの全体像を提示する。
2	児童福祉法・児童憲章 1	児童福祉法及び児童憲章等により、こども福祉の理念を復習する。
3	児童福祉法・児童憲章 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
4	児童の権利に関する条約 1	児童の権利に関する条約により、子どもの権利について復習する。
5	児童の権利に関する条約 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
6	保育所保育指針 1	保育所保育指針により、保育士の専門性、保育所の社会的責任、子どもの発達、保育計画、保護者支援等について復習する。
7	保育所保育指針 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
8	幼稚園教育要領 1	幼稚園教育要領により、幼稚園教育とその役割、教育課程の編成、指導計画の作成等について復習する。
9	幼稚園教育要領 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
10	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 1	幼保連携型認定こども園教育・保育要領により、認定こども園における教育保育の役割等について復習する。
11	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 2	前回の授業内容について、自らが経験した実習を通して具体的に理解する。
12	研究発表会の準備 1	各自が作成した「こども福祉特論ノート」を基にして、研究発表の原稿を作成する。
13	研究発表会の準備 2	各自が作成した「こども福祉特論ノート」を基にして、研究発表の原稿を作成する。
14	研究発表会 1	研究の成果を発表する。
15	研究発表会 2	研究の成果を発表する。

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習指導	科目ナンバリング	YH_S24019
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 こどもを成長へと導く教育を実践するためのスキルを獲得する ○ 2-3 子育てに役立つ知識やスキルを保護者に提供することができる ◎ 3-1 集団保育を提供する施設の機能と役割について正しく理解する		

《授業の概要》

本演習では、保育士資格を取得すること、4年制大学卒業の学位を修得することを踏まえ、それに相応しい学士力を身につけることを目指す。「兵庫大学特別支援保育士」の学びとして設定している科目（病児・障害のある子どもへの支援）に沿った実習の事前、事後指導を実施する。実習後は実習報告会を開催し、実習の自己評価、他者評価を基にして実習報告書を作成する。

《授業の到達目標》

- 実習施設における子どもの人権と子どもの最善の利益を考える姿勢、個人を尊重する考え方を理解できる。
- プライバシーの保護と守秘義務について理解できる。
- 実習計画書の作成、実習中の観察、日誌等記録の書き方、養護技術を学習し修得できる。
- 実習後は、実習全体を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

《成績評価の方法》

事前指導：課題の提出、実習計画書の作成等（50%）
 事後指導：実習報告書の作成等（50%）
 提出物は返却する。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次ほか編、(株)みらい

《参考図書》

実習施設に応じて随時紹介する。

《授業時間外学習》

子どもの貧困、虐待に関する新聞報道等には目を通し、当該実習施設の特徴を把握するよう努め、生活の質の向上をキーワードに子どもの実態について把握してもらいたい。
 授業は全出席を原則とするので、やむを得ず欠席をする場合は、事前に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育士の役割全体の中の「児童福祉実習」の位置付け、授業内容、評価基準と方法、テキストと実習施設に応じた参考資料、予定表の配布、個人票の作成等について
2	事前指導 - 1	実習ノートの配布、実習計画書の作成について 実習計画書の書き方と提出方法
3	事前指導 - 2	実践者に学ぶ (1) こども病院に勤務する保育士の講話
4	事前指導 - 3	実践者に学ぶ (2) こども病院に勤務する保育士の講話
5	事前指導 - 4	視聴覚教材による学習 (1) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習 書籍、専門誌による学習
6	事前指導 - 5	視聴覚教材による学習 (2) 各自実習施設に関する情報収集とテキストによる学習 書籍、専門誌による学習
7	事前指導 - 6	実習計画書の提出
8	事前指導 - 7	オリエンテーションについて、その意義と諸注意
9	事前指導 - 8	オリエンテーション後、実習計画書に従った実習の準備
10	事前指導 - 9	実習日誌の書き方
11	事前指導 - 10	実習に臨むにあたって、実習生の立場と心構えについて 実習報告書の作成について（記述内容と提出方法）
12	事後指導 - 1	実習報告会の準備 (1)
13	事後指導 - 2	実習報告会の準備 (2)
14	事後指導 - 3	実習報告会 (1)
15	事後指導 - 4	実習報告会 (2)

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習 I	科目ナンバリング	YH_F24020
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本実習における実習施設については、子ども病院、特別支援学校等を想定している。

病院に入院している子どもの生活の質の向上について、医療機関勤務の保育士の役割と具体的活動について、障害のある子どもの生活の質の向上及び将来設計について、特別支援教諭または障害児者の施設に勤務する保育士の役割と具体的活動について実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 当該実習施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

実習施設での評価 (60%)
 実習ノート等実習の成果について (40%)

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習 I」「保育実習 1 B」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 発展科目》

科目名	児童福祉実習Ⅱ	科目ナンバリング	YH_F24021
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

本実習における実習施設については、子ども病院、特別支援学校等を想定している。

病院に入院している子どもの生活の質の向上について、医療機関勤務の保育士の役割と具体的活動について、障害のある子どもの生活の質の向上及び将来設計について、特別支援教諭または障害児者の施設に勤務する保育士の役割と具体的活動について実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 当該実習施設の役割や機能について実践を通して理解を深める。
- 家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
- 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と連動させて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

実習施設での評価（60%）
 実習ノート等実習の成果について（40%）

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学習》

- 実習には万全の体調で臨むこと（実習開始10日前からの検温の実施）。
- 実習中は慣れない環境、緊張等で体調を崩しやすいので、実習に集中できるように自己管理を徹底すること。
- 実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《備考》

本科目には履修要件（「保育実習Ⅰ」「保育実習ⅠB」の単位取得済み）が設けられている。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習施設での保育実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《資格関連科目》

科目名	児童館実習（10日間）		科目ナンバリング	
担当者氏名	杉山 貴要江			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する			

《授業の概要》

児童館活動への参加を通して、児童健全育成の基本的理念を理解するとともに、児童館の目的、機能、運営上の基本的な問題を理解する。また、児童支援員の指導のもとに、その役割や職務上の留意点、児童館における遊びの意義やその指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団，2015年

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

児童厚生施設における活動の観察・参加実習を通して施設の機能と実態を理解する。

児童厚生員としての基本的な心構え、態度を研修し、児童厚生員としての資質を高める。

《授業時間外学習》

実習には万全の体調で臨むことが求められる。健康等自己管理を徹底すること。

実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

施設の評価表の基づく評価（60%）

実習ノート等の評価（40%）

《備考》

本実習の再履修は行わないこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童館での実習	1日8時間かける10日間 80時間以上（但し、「保育実習Ⅲ」を児童館で行った場合は、児童クラブでの実習を読み替えることができる）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《資格関連科目》

科目名	児童館実習（20日間）	科目ナンバリング	
担当者氏名	杉山 貴要江		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる ◎ 3-3 質の高い集団保育を実践するためのスキルを獲得する		

《授業の概要》

児童館活動への参加を通して、児童健全育成の基本的理念を理解するとともに、児童館の目的、機能、運営上の基本的な問題を理解する。また、児童支援員の指導のもとに、その役割や職務上の留意点、児童館における遊びの意義やその指導方法について具体的に学ぶ。

《テキスト》

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団，2015年

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

児童厚生施設における活動の観察・参加実習を通して施設の機能と実態を理解する。

児童厚生員としての基本的な心構え、態度を研修し、児童厚生員としての資質を高める。

《授業時間外学習》

実習には万全の体調で臨むことが求められる。健康等自己管理を徹底すること。

実習中は、必要に応じて実習事務室に連絡をすること。

《成績評価の方法》

施設の評価表の基づく評価（60%）

実習ノート等の評価（40%）

《備考》

本実習の再履修は行わないこととする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	児童館での実習	1日8時間かける20日間 160時間以上（但し、「保育実習Ⅲ」を児童館で行った場合は、「児童館実習（10日間）」を受講することとなる。）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		